



福井県社会福祉協議会 アクションレポート

令和6年12月16日 No.14

このアクションレポートは、本会の主な事業等の進捗を定期的にお知らせするために、役員および関係機関向けに発行させていただくものです。

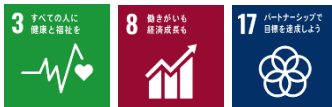
Contents

- ✓ 「楽しかった！」笑顔でふくしの仕事体験 ふくしキッズプロフェッショナル初開催
- ✓ 大学生にアプローチ！「ちょこっと就労」就職面談会 県立大で初開催
- ✓ 第71回福井県社会福祉大会開催！～長年の貢献への感謝と多文化共生の未来に向けて
- ✓ タイ人技能実習生が介護の現場に新たな風を
- ✓ 学生の視点で福祉の魅力を発信！「フクチャレ！2024」
- ✓ 元気高齢者の秋の祭典！（長寿祭・ねんりんピック）
- ✓ 楽しみながら理解促進！ ボランティア月間啓発イベント
- ✓ 未来を育む70時間 実習生と共に学ぶ
- ✓ 介護支援専門員養成研修を新カリキュラムにより実施！

「楽しかった！」笑顔でふくしの仕事体験 ふくしキッズプロフェッショナル初開催

基本目標2
地域と福祉を支える
担い手づくり

関連するSDGsゴール



看護体験

介護（移乗）
体験



11月30日(土)・12月1日(日)の両日、福井市のラブリーパーターナーエルパ1階イベントスペースにおいて、小学校4年生から6年生を対象に、福祉の仕事を経験する「ふくしキッズプロフェッショナル」を開催。

県内105名の児童が「介護福祉士」「障がい支援員」「看護師」「保育士」の仕事を経験しました。

このイベントは、子どもたちに楽しみながら福祉の仕事を実感してもらえよう、県社協が初めて企画したものです。

各体験プログラムは、介護・福祉分野の各団体が検討し作り上げました。

その内容は、「介護ロボットの操作」や「点字の名刺作成」、「感染症対策のための个人防护服の着脱」、「乳児の人形と一緒にふれあい



点字体験

遊び」など、それぞれの団体が工夫を凝らした内容で、子ども達も真剣にスタッフの説明を聞きながら取り組んでいました。

子ども達からは、「楽しかった、またやりたい!」という多くの声。また、子ども達の体験を見ていた保護者からは、「良い経験をしている」「私たちも勉強になる」という声も聞かれ、今回の事業を通して、福祉の仕事への理解が進み、将来の職業選択につながる取り組みとなりました。



保育士体験



白杖体験

大学生にアプローチ！ 「ちょこっと就労」就職面談会 県立大で初開催

基本目標 2

地域と福祉を支える
担い手づくり

関連するSDGsゴール



学生に福祉施設等でのアルバイトを呼びかける「学生版『ちょこっと就労』」事業が10月よりはじまり、本会ホームページ上に本事業に参加する57事業所のアピールポイントや業務内容などを掲載したところ、3名の学生から応募があり、これまでに2名の学生の採用が決定しました。

また、11月21日(木)に高齢者や主婦などを対象に開催している「『ちょこっと就労』就職面談会」を福井県立大学の協力を得て、初めて同大学の多目的ホールで開催。

7法人が参加。来場した学生に事業所の様子やアルバイトの内容を伝えました。参加した事業所職員からは「就職活動以外の学生に直接仕事の魅力や施設の様子を伝えることが出来た。アルバイトで福祉の現場を知ってもらえたらうれしい。」という声、また、来場した学生からは「今後の進路の参考になった。」「将来の就職先に関する情報を得られた。」などの意見がありました。

今後も福祉の仕事について現場の職員と学生が直接話し合える機会を設けるなど、将来の職業選択の一助となるよう支援していきます。



県立大学でのちょこっと就労説明会

第 71 回福井県社会福祉大会 開催！ 長年の貢献への感謝と多文化共生の未来に向けて

基本目標 4
新たな課題に取り組む
組織・ネットワークづくり

5つのチャレンジ③
福祉・介護で働く在日
外国人への支援

関連するSDGsゴール



10月26日（土）、福井県生活学習館（ユウ・アイふくい）にて、第71回福井県社会福祉大会を開催しました。

まず社会福祉の様々な分野やボランティア活動で長年活躍し、福祉の発展や向上に寄与した373人と3団体に、その功労を称える表彰が行われました。

その後に行われた記念講演では、タレントのPACKUNマックンによる「これからの多文化共生」をテーマとした講演がありました。



表彰式



会場を盛り上げるPACKUNマックン

講演では、外国人に話しかけづらい、英語を話せないという日本人は多いが、在日外国人には日本語で話しかけたほうが外国人も嬉しい、また日本人は義務教育等で多くの英単語を学んでおりそれだけで十分外国人に通じるので勇氣を持って話してほしい、これらのことが外国人や外国の文化を理解する一歩となるということ、PACKUNとマックンの掛け合いで面白く話し、来場者の笑いが絶えない楽しい講演となりました。

タイ人技能実習生が介護の現場に新たな風を

基本目標 2
地域と福祉を支える
担い手づくり

5つのチャレンジ③
福祉・介護で働く在日
外国人への支援

関連するSDGsゴール



本会では、県や県介護福祉士会と連携して、県内介護施設へのタイ人技能実習生の受入れ支援を行っており、これまでに43名（17施設）を受け入れました。

施設での丁寧な指導や本人の努力もあり、現場で不可欠な存在として活躍中です。実習生たちが熱心に介護に励む様子を見て、リピートで実習生を受け入れる施設も増えています。

施設の声をご紹介します。

施設の技能実習責任者「初めてタイからの技能実習生受入れが決まった時、文化の違いや共通言語がないことで、実習に支障がないか、介護に熱心に向き合ってくれるかなど不安がありました。

しかし、実際に受け入れてみると、一番不安を抱えているはずの彼女たちの表情はいつもはつらつとし、優しい笑顔で利用者様にも職員に対しても丁寧な日本語で会話をする姿にとっても驚かされています。何より、彼女たちの実習に対する姿勢は、受入れ側の私たち施設職員が、日々感化を受けており、初心を振り返る気持ちになります。同時に、施設の雰囲気にも変化があり、外国人材の活躍は業務だけにとどまらず、大きな影響がありました。」



食事介助も笑顔で

学生の視点で福祉の魅力を発信！ “フクチャレ！2024”

基本目標 4 新たな課題に取り組む 組織・ネットワークづくり 関連するSDGsゴール



学生の視点で県内の福祉関係団体取材し、その魅力を広く伝える「フクチャレ！2024」は県社協が県立大学との協働で福祉のイメージアップを図る取組みです。

昨年度に引き続き、本年度は、11人の学生が3グループに分かれ、県内の福祉団体の取組みを取材・体験し、福祉の魅力を探り、どう伝えるか、ゼミの授業で広報の制作に挑戦しています。

まずは、取材先の活動内容を調べ、質問内容をグループ内で検討し、インタビューの模擬練習も行いました。

インタビューでは、福祉活動実践者の活動への想いや苦労等について理解を深め、実際に体験活動も行います。

学生自らが考え、体験したことを踏まえ、学生の視点で福祉の魅力を発信する広報素材作成します。



自助グループゆっくりでのインタビュー



福インクルでのインタビュー



はあもにい永平寺での青空陶芸教室体験活動

完成は年が明けた2月頃の予定ですが、活動内容の近況を本会フェイスブックで随時発信していきますので、ご期待ください。

本会 Facebook



【今年度の取材先】

自助グループゆっくり (摂食障害 当事者・経験者のためのピアサポート)
一般社団法人 福インクル (フリースクール)

特定非営利活動法人 はあもにい永平寺
(重症心身障がい児者 福祉サービス事業所)

元気高齢者の秋の祭典！（長寿祭・ねんりんピック）

基本目標 1

社会的孤立を生まない
地域づくり

関連するSDGsゴール



スポーツや文化種目競技を生きがいとしているシニアの皆さんにとっての一つの目標になっている「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」と、その県版ともいえる「ふくい健康長寿祭」が例年通りこの秋に実施されました。

ふくい健康長寿祭（県・県社協主催）は9月15日（日）、大野・勝山エリアの各競技会場で15の競技が行われるなど、コロナ禍以降最大となる約2,200名の参加を得て盛大に催されました。



ふくい健康長寿祭 2024 開会式



長寿祭ゲートボールの様子

また、ねんりんピックは10月19日（土）～22日（火）に鳥取県内各地で多数の競技が行われる中、福井県からは20の競技に137名が参加しました。開会式はあいにくの荒天で入場行進の中止など規模が縮小されて行われましたが、翌日からは天気が回復し、予定通り各競技が行われ、参加者は全国の選手との試合を楽しみました。

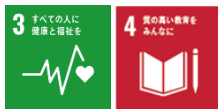
いずれのイベントも参加者にとっては日頃の練習の成果を競うとともに、交流により「つながり」を深めることの楽しさを実感する貴重な機会となりました。



ねんりんピック鳥取大会開会式参加者の皆さん

楽しみながら理解促進！ ボランティア月間啓発イベント

基本目標 1
社会的孤立を生まない
地域づくり
関連するSDGsゴール



今年度の「『つながれボランティアの輪』推進運動」のスローガンは「ランティーと推しボラ見つけよう！」であり、特に若い世代にボランティア活動への関心を高めてもらうため、若い世代で一般化している「推し活」を参考に「推したいボランティア活動（推しボラ）」を見つけることをコンセプトとしました。

また、9月のボランティア月間にちなんで県内のショッピングセンターに出向き、「ボランティア適性診断」でおすすめしたいボランティア活動を紹介し、実際に体験していただく取り組みを実施しました。

特に9月7日（土）のラブリーパートナー・エルパでは、ポッチャ体験、認知症 VR 体験、バルーンアート体験コーナーを設け、多くの方が来場し、ボランティアを知っていただく良い機会となりました。

なお、今年度は「若者のボランティア活動意識に関するアンケート」調査を行い、多くの若い世代の意見をいただきました。これらの意見を集計し分析を行い、今後のボランティア振興の取り組みにつなげていきます。



福井県ボランティアセンターマスコット
“ランティー”



エルパでたのしくポッチャ体験

未来の社会福祉士と共に学ぶ 70 時間

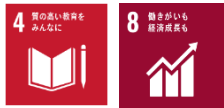
地域共生社会に向けては、複雑な課題でもまるごと受け止められる相談支援体制を作ることや、地域住民が自ら地域の課題を解決していこうとする体制を作ることが求められますが、これらを推進する専門職として社会福祉士の役割が期待されています。

本会では、9月に金城大学生1名、11月に福井県立大学生2名のソーシャルワーク実習（社会福祉士実習）を受け入れました。

実習期間中は、広報紙企画やボランティア啓発企画のプレゼンを実施してもらったり、研修等で各職種の方々と関わったりして県社協の事業の実際に触れ、学びを深めてもらいました。

基本目標 2
地域と福祉を支える
担い手づくり

基本目標 4
新たな課題に取り組む
組織・ネットワークづくり
関連するSDGsゴール



実習生からは「一つひとつの事業で色々な団体や職種と連携していることがわかり、他団体の方との日頃の交流が大事だと思った」といった貴重な声を聞くことができ、本会にとっても日ごろの事業を振り返る大変良い機会となりました。

今回の実習が、実習生の今後の社会福祉士としての活躍につながることを心より願い、本会では今後も実習生の受け入れを積極的に行い、地域福祉の発展に貢献してまいります。



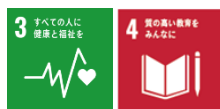
実習生自身による企画をプレゼンする機会もありました



健康長寿祭では他団体との協働を感じてもらいました

介護支援専門員養成研修 新カリキュラムにより実施！

基本目標 2
地域と福祉を支える
担い手づくり
関連するSDGsゴール



本年度から、介護支援専門員の資質向上や、昨今の介護保険制度改正等の状況を考慮して、新カリキュラムが導入されました。

新しいカリキュラムには「適切なケアマネジメント手法」の類型に位置づけられた科目が設けられ、また、地域共生社会の実現に向けて、介護保険以外の領域の制度・政策、社会資源等の近年の動向（地域包括ケアシステム、認知症施策大綱、仕事と介護の両立、ヤングケアラー、科学的介護（LIFE）等）も踏まえた研修内容となりました。

5月から専門研修課程Ⅰ・Ⅱ、再研修・更新研修（未経験者）研修を開催し、12月からは実務研修を実施します。

10月末現在であわせて約390名の方に受講いただいています。

これからも、県をはじめ関係団体や研修講師の皆様等と連携をとり、適切な研修運営に努めてまいります。



実務研修講師事前打合せ会



専門研修課程Ⅰの実施

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 総務企画課
〒910-8516 福井市光陽2丁目3-22
TEL 0776-24-2339 / FAX 0776-24-8941 / E-mail somu@f-shakyo.or.jp



ホームページ



YouTube



Facebook